

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

音を感じる・見る・表す / 学校法人常磐会学園 常磐会短期大学附属茨木高美幼稚園

子どもたちのみずみずしい感性は、様々な遊びの始まりや展開に結び付いています。今回ご紹介する事例の園では、例年和太鼓の活動が活発に展開しているそうです。そこで、音に関する姿に注目すると、子どもたちが“音”を通して、モノや自然に関わり、多様な体験を重ねていることが分かってきました。



音を楽しむ子どもたち / 3～5歳児

✦ 生き物と関わる

● カイコ（3歳児）

カイコを飼い世話をした。当初は葉を細かく切って餌にしたが、3齢（4cmほど）になると桑の葉をそのまま食べるようになる。飼育箱に入れると、葉をかむ音が聞こえる。その音に気付いた3歳児が「カイコお話ししてるよ」と話したので「なんて言ってるの?」と保育者が尋ねると「おいしい、おいしいって」と嬉しそうに答えた。また雨が降った日、普段口数の少ないKちゃんが小さな声で「カイコさんムシャムシャ食べてるの、なんか雨の音みたい」と耳を傾け、カイコと雨の音を感じていた。

● ヤギ



リリ（ヤギの名前）鳴いている。お腹が空いているのかな？

● アヒル



アヒルの赤ちゃんまだかな？

✦ 感じる・見る・表す

● 風船遊び



風船で声や音を出すことを楽しんでいた子どもたち。そこで、保育者は傘袋に発泡ビーズを入れて遊べるように準備をした。

● 雨の音で遊ぶ



● 和太鼓を楽しむ（5歳児）

「いい音を出したい」「音や動きを合わせたい」そして『もっとやりたい』と思う。

しかし、大きな音は思う存分に出すことはできない。そこで、子どもたちは考えたり工夫したりした。段ボール箱で太鼓を作った子どもたち。ばちを他のモノで作った子どもたち。タオルをばちに巻いたり太鼓にかけたりした子どもたち。

音を感じることで、一層、“音”に興味をもった子どもたちは、「傘袋の中に小さな発泡ビーズを入れ、膨らませて口に当てて、話す」遊びに夢中になる。一人が傘袋風船に口をあて声を出すと、発泡ビーズが上下に動く。注目していた周りの子どもたちから歓声が上がります。声を出している時だけ動く発泡ビーズを、「何で動くの?」と不思議そうに見ている。繰り返し交代して試すうち、風船で感じたように、声の袋に当たると振動して、発泡ビーズが動くということ、そして、音を見ることができたと大きな発見に驚いていた。

何度となく経験している雨。しかし、突然の雨の瞬時の変化に出合い、土砂降り、小雨、いろいろな雨を“音”と一緒に知った。“雨”を言葉や身体表現、描写表現などいろいろな方法で表現する子どもたち。強い雨（音）は力強く、弱い雨（音）は優しく描くなど子どもが感じたまま“音”を表現する楽しい経験となった。

時にはみんなで、外に出て太鼓の音を聞いたり、床など太鼓の音が響く振動を感じたりした。太鼓の音に関わる様々な体験を重ね、ますます和太鼓の音を感じて取り組むようになった。

✦ 考察

音を意識することで聞こえ方が違う。環境や教材の工夫により、子どもたちは、見えない音を見たり描いたり体で感じたりすることを楽しんでいる。様々な体験は、「より良い音」にしたいという和太鼓の活動の深まりに結び付いた。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」